

年	組	名前
---	---	----

ブッポウソウが庄内町に



仲むつまじい姿を見せる「ブッポウソウ」= 4日午後、由布市庄内町

仲むつまじくく口移し

県や環境省のレッドデータブックに記載され、絶滅の危険性が高い鳥「ブッポウソウ」が由布市庄内町に飛来している。4日も電線に止まった2羽の仲むつまじい様子が見られた。

日本野鳥の会県支部によると、ブッポウソウは夏鳥で、5月ごろ東南アジアなどから日本へ渡ってくる。秋までには再び南へ移動する。くちほしと脚が赤く、体は青や緑色。翼に青白い紋がある。同町のほか、佐伯市宇目などで目撃されることもある。巣作りに適した環境があり、食糧のトンボなどが豊富などの条件が整っているためとみられる。

渡来しているのは町内を流れる大分川周辺。日本野鳥の会県支部の江口初男さん(64)は「南方系の独特の美しさがある」とシャッターを切っていた。毎日、写真を撮っているという斎藤石雄さん(67)は「5月28日に飛来していることに気が付いた。何回でも撮影したい素晴らしい鳥」と話した。

県や環境省のレッドデータブックに記載されている鳥「ブッポウソウ」が、飛来してきました。

レッドデータブック



このままでは滅びてしまう恐れのある野生生物などを掲載するレッドデータブックは、環境省や県などが作っています。自然界で生活している状態や減少の理由などが記され、多くの生物を守っていくための基礎資料になっています。現在の状態を広く知ってもらう目的もあります。

県独自のデータブックは2001年

に初めて作られ、11年にまとめられたものが最新版です。専門家の調査で1289種類を掲載。絶滅してしまったものや、野生絶滅、絶滅危惧Ⅰ類（ⅠA類、ⅠB類）、絶滅危惧Ⅱ類などランクを分けて紹介しています。

生物を守るための基礎資料

ブッポウソウは「ⅠA類ほどではないが近い将来、野生での絶滅の危険性が高い」とされる絶滅危惧ⅠB類。県指定希少野生動植物のカブトガニ、オンセンミズゴマツボ、ヒゴタイ、ヒメユリなども載っています。

(2015年6月5日朝刊21面)

①ブッポウソウが由布市庄内町で見られる理由は、こういった条件が整っているからだと考えられますか。

.....

.....

.....

.....

②レッドデータブックには、こういった生物が載っているでしょう。県独自のものには何種類が掲載されていますか。

.....

.....

.....

.....

③レッドデータブックに載っている生物を調べてみよう。

.....

.....

.....

.....